

Smarter technology for all

はじめよう！テレワーク

持続可能なテレワーク制度を導入するために大切なこと

レノボ・ジャパン合同会社
ワークスタイル・エバンジェリスト
元嶋 亮太

Lenovo



テレワーク

事業継続（BCP）の観点で喫緊の課題に



検討

必要性認識

導入

トライアル～制度化

促進

利用促進の壁

定着

当たり前のものに

テレワーク活用 4つのステップ

日本におけるテレワークの課題

■ テレワーク制度が企業にある（11.5%） > ■ テレワーク制度の対象者（6.7%） > ■ 実際のテレワーク利用者（4.9%）

1

テレワーク制度の採用率の低さ
企業・組織の88.5%は引き続き採用せず

2

テレワーク制度の対象者の限定
採用企業に占める対象者は57.9%

3

テレワーク制度の限定的な利用率
制度対象者に占める実利用者は74.1%



このセッションのゴール

“持続可能”なテレワーク制度を社内/組織内に定着させるために必要な要素を
レノボ・グループでの実践からの学びもご紹介しながら3つの観点でご理解いただくこと



制度



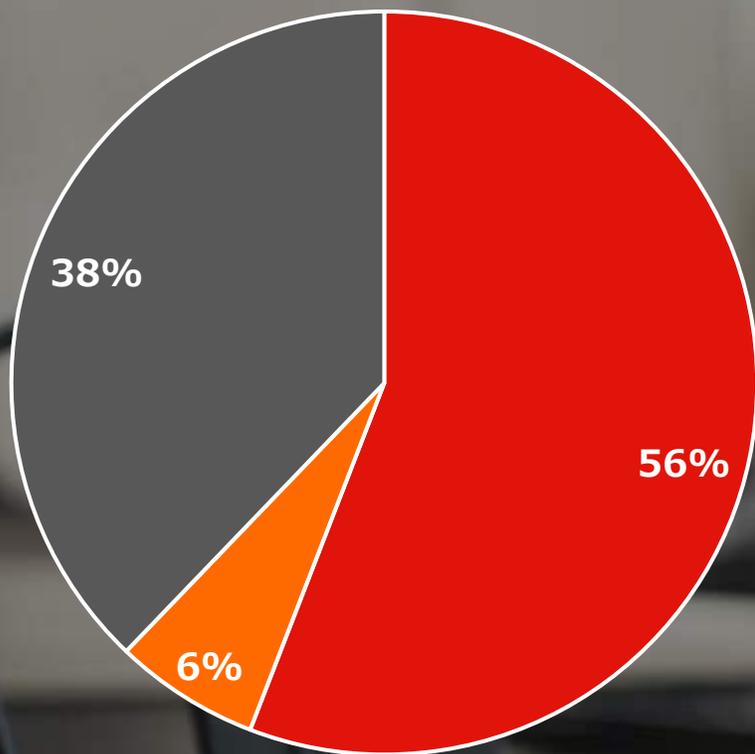
環境



文化

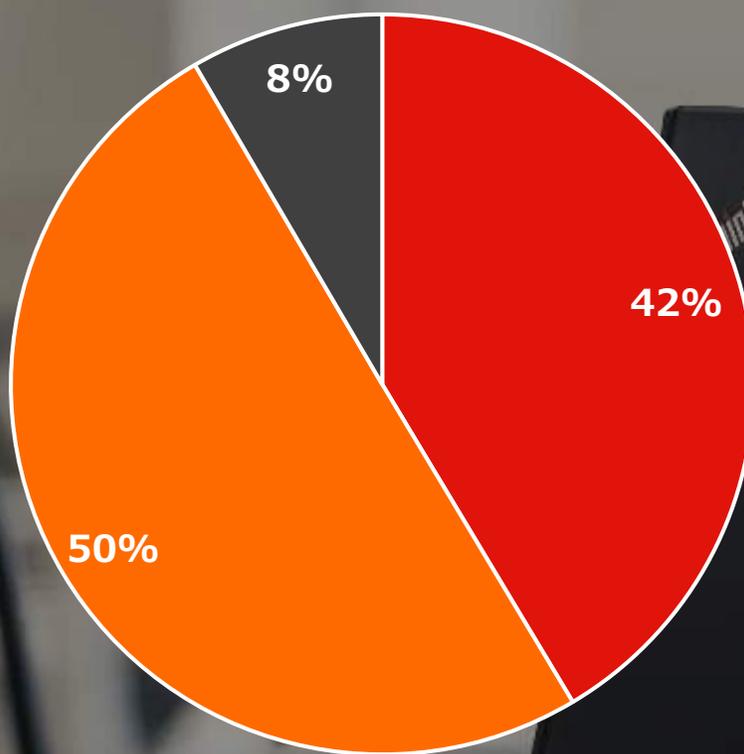
レノボ・グループにおけるテレワーク活用の現状

テレワーク利用頻度



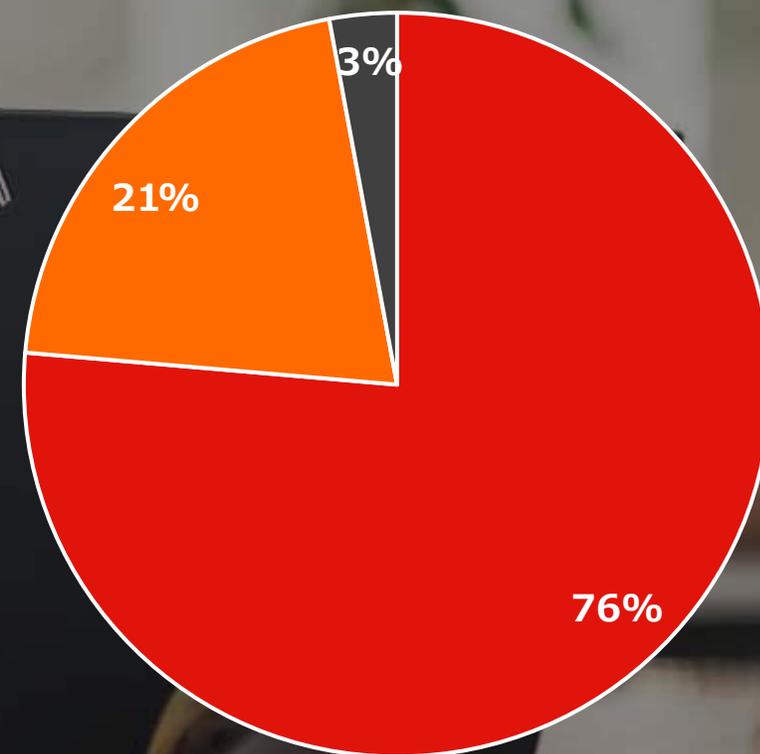
■ 週1回以上 ■ 月1回以上 □ 利用していない

生産性への影響



■ 向上した ■ 変わらない □ 低下した

ワークライフバランス



■ 向上した ■ 変わらない □ 低下した

COVID-19を受けたレノボ・グループの対応

通常時の勤務ポリシー

- それぞれの働き方に最適な環境を自ら選ぶ
- 利用対象者を限定しない無制限テレワーク制度
- オンライン会議を原則すべての会議に設定

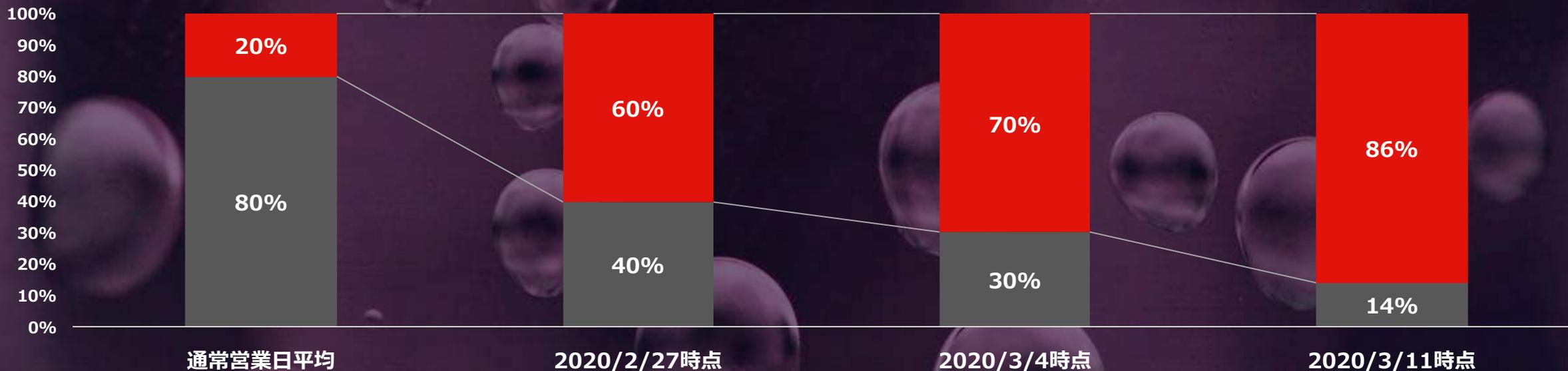


COVID-19対応ポリシー

- 原則としてテレワークでの勤務
- 出勤が必要な場合には申請ベースで対応
- 原則としてミーティングはオンライン会議で実施

本社オフィス 在席状況の推移

■ テレワーク ■ オフィス勤務



テレワーク制度と運用ルール



対象者: 原則、社員および契約社員

※但し自己管理能力上、もしくは業務上不適当な場合は適用対象外



取得回数: 制限なし、時間単位での申請も可能



主な運用ルール:

- ・原則、利用前日までにマネージャーの承認を得ること
- ・オフィスでの勤務同様の勤怠管理を行うこと
- ・利用中はMicrosoft Teams / Skype for BusinessをActiveな状態とすること

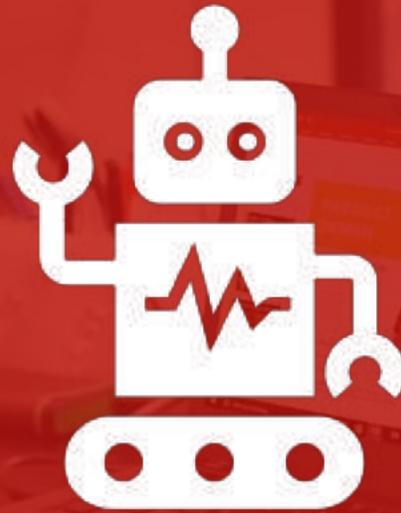
人の行動をベースにして働く場所やツールを決めていく考え方

ABW: Activity Based Working

3つの要素の組み合わせで、従業員ひとりひとりが最高の生産性を発揮できる環境を自ら選択する



物理的な環境
どこで働くか



テクノロジー
なにで働くか



従業員の行動
どうやって働くか

作業部屋

厚生労働省の基発0712第3号によると、テレワークを含む事業所以外の場所で行われる情報機器作業等については、『情報機器作業における労働衛生管理のためのガイドライン』が業務環境整備の上での指針になるとされています。

自宅でテレワーク環境を整備するにあたっては、一律かつ網羅的に基準を定めることは難しく、従業員それぞれの住環境によってどこまでスペースが用意できるのかなど環境は多様化の一途をたどっていますが、一方で会社や組織として、生産性を高めるための基準の策定、健康影響を踏まえた措置、そして何よりも自宅であったとしてもオフィスと同じように設備投資の対象として捉えることにより、オフィスと同等かそれ以上の生産性と快適性を兼ね備えた環境を提供することが可能となります。

右に示すのは『情報機器作業における労働衛生管理のためのガイドライン』において示されている作業環境に関するガイドのうち、特にホームオフィス環境においても適用が必要と考えられる項目です。



情報機器作業における労働衛生管理のためのガイドライン
<https://www.mhlw.go.jp/content/000539604.pdf>

室内はできる限り明暗の対照が著しくなく、かつ、まぶしさを生じさせないようにすること
ディスプレイ画面に太陽光等が入射する場合は、必要に応じて窓にブラインド又はカーテン等を受け、適切な明るさとなるようにすること

机または作業台は、キーボード、書類、マウスその他情報機器作業に必要なものが適切に配置できる広さであること
高さが調整できることが望ましいが、調整できない場合は床からの高さは作業者の体型にあった高さ（65～70cm）とすること。作業者の脚の周囲の空間は、情報機器作業中に脚が窮屈でない大きさのものであること

椅子は安定しており、かつ、容易に移動できること
床からの座面の高さは、作業者の体形に合わせて調整できること（37～43cm）
適当な背もたれを有していること。また、背もたれは傾きを調整できることが望ましい
また、必要に応じて適当な長さの肘掛けを有していること

通信環境

テレワークを実施するにあたって通信環境は必須となります。オンライン会議など、通信量を多く使うアプリケーションを利用する機会も多くなるであろうことから、基本的には固定回線での利用、もしくは一律の通信容量制限がないか、月あたりで数十GB単位の利用が可能な公衆無線回線の利用を推奨します。

帯域幅についても注意が必要です。

以下は参考例としてMicrosoft Teamsのシナリオごとの推奨帯域幅になりますが、遠隔地であったとしてもFace-to-Faceでコラボレーションを行うシーンを考えると、最低でも上下ともに数Mbpsは実測で出せる環境が要件となるでしょう。

帯域幅 (上り/下り)	シナリオ
30 kbps	1対1の音声通話
130 kbps	1対1の音声通話と画面共有
1.2 Mbps	1対1の720pでのビデオ通話
1.5 Mbps	1対1の1080pでのビデオ通話
500kbps/1Mbps	ビデオ会議
1Mbps/2Mbps	HDビデオ会議 (1080p画面)



Prepare your organization's network for Microsoft Teams
<https://docs.microsoft.com/ja-ip/microsoftteams/prepare-network>

オンライン会議利用のための内蔵Webカメラ
プライバシー保護の観点からシャッター付がベスト

可搬性の観点から14インチ or 13インチ画面
作業効率の観点からフルHD以上の解像度を推奨

入力効率を落とさないために、キーピッチやレイアウト、
キーストロークなどを含めた打鍵感

ノートパソコン

テレワークの実施にあたっては、ノートパソコンの支給が一般的です。従業員それぞれの働き方に合わせて調達する必要がありますが、共通でおさえるべきポイントを以下の通りまとめました

- ・画面サイズ：A4ノート、デスクトップからの移行の場合は14"を推奨
※外勤含めた社内の標準機統一等のケースでは13"も推奨
- ・画面解像度：2画面を同時表示することを想定して
フルHD（1,920 x 1,080 px）以上を推奨
※外装式/内蔵型プライバシーフィルターも忘れずに
- ・キーボード：変則的なレイアウトが存在しないこと
長時間タイピングしても疲れづらい打鍵感であること
※数字を多く取り扱うユーザには数字キーパットの
支給、もしくは外付キーボードの利用を検討
- ・Webカメラ：オンライン会議での利用のために内蔵されていること
利用時以外のプライバシー保護のためのシャッター機能
- ・拡張性：周辺機器との接続を一括で行うことが可能な
フル機能USB Type-C対応のポートの実装
また、SIMを内蔵できるLTEモデルも必要に応じて検討
- ・堅牢性：持ち運びを想定したMIL-STD810への準拠



ThinkPad T490s/T495s



ThinkPad L490



ThinkPad L13 / L13 Yoga

ディスプレイ

マルチモニター環境の整備は、テレワーク環境においても重要です。ノートパソコンに加えて2つめのディスプレイを用意することにより、作業効率・生産性の向上はもちろんのこと、労働衛生管理の観点でも快適な環境を用意することが可能となります。

自宅にテレワーク用のデスクスペースが十分に用意できる場合には、ThinkVision T23i-10に代表される21インチ以上、フルHD以上の解像度を持った据え置き型ディスプレイの設置が有効です。これにより、『情報機器作業における労働衛生管理のためのガイドライン』で規定されている40cmの視距離、かつ高さが視線と同じ、もしくは少し下というガイドラインを遵守することにつながります。画面の高さなどを任意に調整できる機構がスタンドに備わっていることも重要な観点となるため、ディスプレイ選定時に必ずご確認ください。

リビング/ダイニングで仕事をするケースなど、場所が十分に確保できない場合には、ThinkVision M14のような簡単に携帯・収納が可能なモバイルモニターの活用も併せてご検討ください。



Lenovo D22-10



ThinkVision T23i-10



ThinkVision M14

ノート型機器を用いる場合について、長時間作業を行う場合については作業の内容に応じ外付けディスプレイなども使用することが望ましい。またおおむね40cm以上の視距離が確保できるようにし、画面の上端が眼の高さと同じか、やや下になる高さにすることが望ましい。

使用者それぞれの体格は異なることから、ディスプレイ画面の位置、前後の傾き、左右の向き等を調整できるものが望ましい。

USB Type-C接続が可能なディスプレイ・ドックであればケーブル一本で給電・投影のみならずデータの転送、RJ-45が接続先に装備されている場合は有線でのネットワーク接続もワンタッチで可能。





Lenovo Pro
ステレオ VoIP ヘッドセット

特に一日複数回のオンライン会議が日常的に行われる働き方を想定する場合には着け心地が非常に重要です

マイクの性能はヘッドセットによって大きく異なります
ノイズキャンセリング機能が付いているかどうかなど
導入前に十分な検討を行うことをおすすめします

より確実/簡単な有線接続
もしくは快適な無線接続
ミュートボタンの有り無しも重要



通話環境

レノボによる日本市場を対象にした調査*では約7割のテレワーク従事者が日常的に実施していると回答するなど、テレワークとオンライン会議は切っても切り離せない関係にあります

Microsoft TeamsやZoomなどのオンライン会議を積極的に活用することによって、物理的に離れた場所で働いていたとしても、まるで相手が目の前にいるかのようなFace to Faceの会話を実現することが可能となります

オンライン会議を実施する上で重要な要素となるのが“音”です
長時間着用していても苦にならない着け心地、そしてノイズキャンセリングマイクによって“相手に声が確実に伝わる”かどうかなど、テレワーク環境向けに支給するヘッドセットの導入時にはコスト以外の要素も含めて多角的に検討する必要があります

また、常時チームのメンバーをオンライン会議で繋げた状態で業務時間を過ごす働き方を行う場合などには、直観的に利用可能なThinkSmart Viewに代表される専用端末の利用も効果的です



ThinkPad X1 アクティブ ノイズ
キャンセレーションヘッドホン



Jabra EVOLVE
20 UC Stereo



ThinkSmart View
for Microsoft Teams



ThinkSmart View

モダンワークスペースに最適なデザイン

コンパクトな筐体に8インチディスプレイ、スピーカーマイク、そしてWebカメラまでを内蔵した個人向けコラボレーション端末

Microsoft Teamsの利用に最適化

スタンドアロン端末としてPCなしでもTeams会議への参加や通話受発信が可能な他、PC連携により更なる利便性を提供

容易な導入と管理

Microsoft Teams IP Phone appを採用し、Teams管理センターを介したクラウド経由のステータス確認も可能



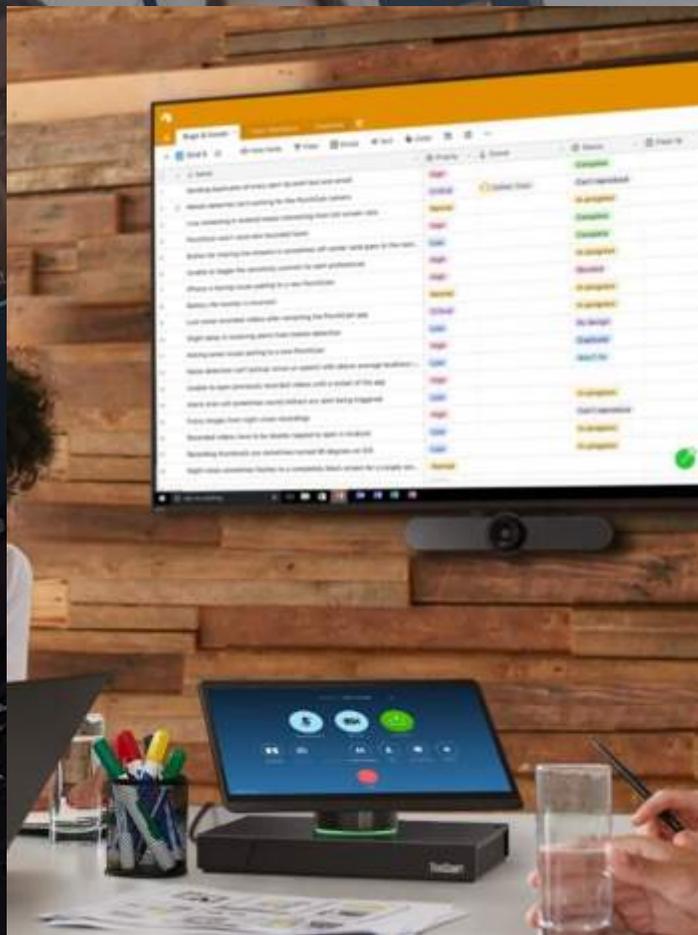
Certified for

Microsoft
Teams

オンライン会議を当たり前前の存在とするために



オンライン会議情報を
必ず会議依頼に含める



使いやすいオンライン
会議システムを設置する



クオリティの高い
ヘッドセットを支給する

会議のハブとなるオンライン会議専用デバイス

ThinkSmart Hub 500

ThinkSmart Hub 500 は小規模会議室のために専用に設計されたオンライン会議専用デバイスです。直感的な操作で高品質なオンライン会議環境をすべての人へ。お客様の小規模会議室をこれ1台でスマートに。



小規模会議室のためにゼロから設計された専用デバイス



360°回転する統合されたコントロール画面



Dolby® Audio™ Premium準拠の高品質なオーディオ

テレワークを当たり前にするための 意識・文化



テレワーク・デイの定期実施

社員のみなさん

昨日はテレワークデーへの参加、ありがとうございました。テレワークは日本政府のある取り組みの一つであり、その先駆けとなってゆくことは非常に意義深いことだと考えています。以前にもお伝えしましたが、私は働くことの価値とは、どこで働いているか、どこにいるかではなく、どういう成果を出せたかであると考えています。正しいゴールがあれば、それをどうやって達成するかは皆さんに任せ、結果にフォーカスしたいです。

さらに、我々のチームがテレワークを支持すべきであると強く感じる理由がいくつかあります。

- 1) ワークライフバランスの改善で、ワーキングマザー、ワーキングファザーをサポートできます。大切な人と自分の都合に合わせて仕事のスケジュールを組むことができます。

トップダウンのメッセージ



定期的な社内調査と改善



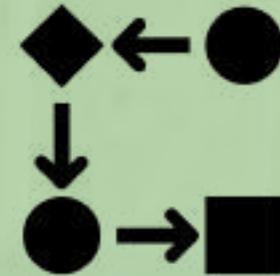
持続可能なテレワークの実現



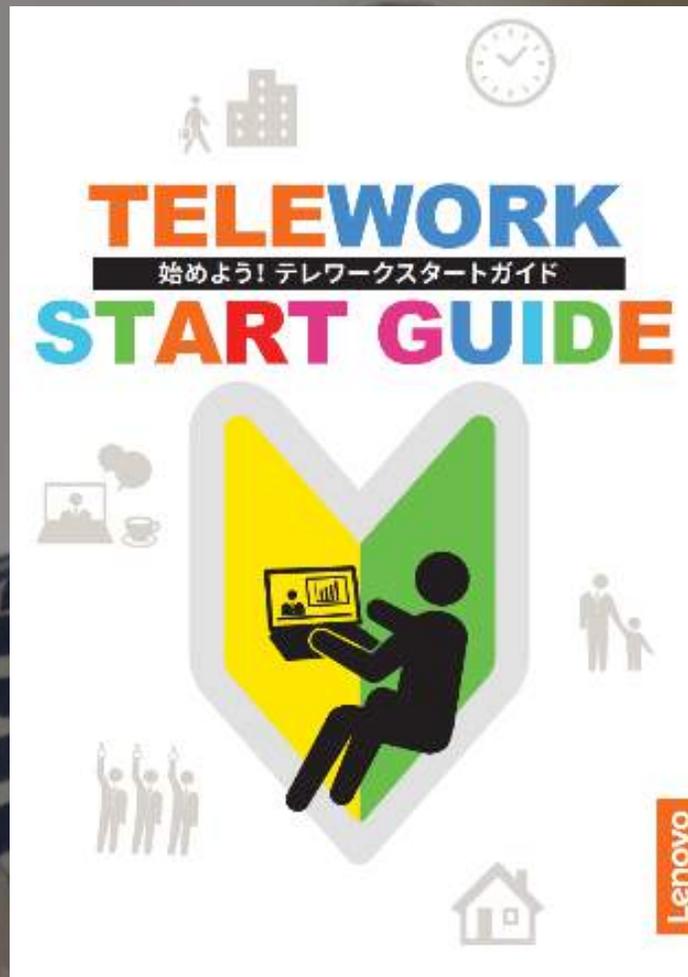
テクノロジーが遂に働き方に追いつく
適切な投資で、生産性を最大化



テレワークを実行するのは“人”
制度だけでなく社風を変える



はじめから100%の仕組みはない
最初の一步を踏み出すことが重要



レノボ テレワーク

thanks.

**Smarter
technology
for all**

Lenovo